

国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構の 業務実績に関する評価に対する意見(案)について

- ◆ 令和6年度における業務の実績に関する評価に対する意見(案)
- ◆ 第4期中長期目標期間における業務の実績に関する
評価に対する意見(案)

令和7年8月5日

総務省国立研究開発法人審議会

■【令和6年度における業務実績】 総務省担当分27項目について、JAXAの自己評価（S：6項目、A：9項目、B：12項目）は、概ね妥当であるが、ごく一部については評価が高すぎる項目があった。

また、多くの項目において特に顕著な成果（S：6項目）、または顕著な成果（A：9項目）をあげている。

■【第4期中長期目標期間における業務実績】 総務省担当分28項目について、JAXAの自己評価（S：3項目、A：15項目、B：10項目）は、概ね妥当であり、ごく一部については評価が高すぎる項目があった。

また、多くの項目において特に顕著な成果（S：3項目）、または顕著な成果（A：15項目）をあげている。

評価項目名	R6年度		第4期中目		評価項目名	R6年度		第4期中目		
	JAXA	意見 (案)	JAXA	意見 (案)		JAXA	意見 (案)	JAXA	意見 (案)	
Ⅲ.3.宇宙政策の目標達成に向けた宇宙プロジェクトの実施	A	○	A	○	Ⅲ.6 戦略的かつ弾力的な資金供給機能の強化	B	○	B	○	
Ⅲ.3.1 準天頂衛星システム	A	○	A	○	Ⅲ.7. 宇宙航空政策の目標達成を支えるための取組	A	○	A	○	
Ⅲ.3.2 海洋状況把握・早期警戒機能等	S	○	A	○	Ⅲ.7.1 国際協力・海外展開の推進及び調査分析	S	○	A	○	
Ⅲ.3.3 宇宙システム全体の機能保証強化	B	○	B	○	Ⅲ.7.2 国民の理解増進と次世代を担う人材育成への貢献	A	B	A	○	
Ⅲ.3.4 宇宙状況把握	A	○	A	○	Ⅲ.7.3 プロジェクトマネジメント及び安全・信頼性の確保	B	○	B	○	
Ⅲ.3.5 次世代通信サービス	S	○	B	○	Ⅲ.7.4 情報システムの活用と情報セキュリティの確保	B	○	B	○	
Ⅲ.3.6 リモートセンシング	S	○	S	○	Ⅲ.7.5 施設及び設備に関する事項	A	○	A	○	
Ⅲ.3.7 人工衛星等の開発・運用を支える基盤技術 (追跡運用技術、環境試験技術等)	A	○	A	○	Ⅲ.8 情報収集衛星に係る政府からの受託	S	○	A	○	
Ⅲ.3.8 宇宙科学・探査	S	○	S	○	Ⅳ. 業務運営の改善・効率化に関する事項に係る措置	B	○	B	○	
Ⅲ.3.9 月面における持続的な有人活動	A	○	A	○	Ⅴ. 財務内容の改善に関する事項に係る措置	B	○	B	○	
Ⅲ.3.10 地球低軌道活動	B	○	A	○	Ⅵ.1 内部統制	B	○	B	○	
Ⅲ.3.11 宇宙輸送	B	○	B	○	Ⅵ.2 人事に関する事項	B	○	A	○	
Ⅲ.4. 宇宙政策の目標達成に向けた分野横断的な研究開発の取組	A	○	S	A	Ⅵ.3 中長期目標期間を超える債務負担	—	—	B	○	
Ⅲ.4.1 民間事業者との協業等の宇宙利用拡大及び産業振興に資する取組	B	○	A	○	Ⅵ.4 積立金の使途	—	—	—	—	
Ⅲ.4.2 新たな価値を実現する宇宙産業基盤・科学技術基盤の維持・強化（スペース・デブリ対策、宇宙太陽光発電含む）	S	A	S	○		S評価	7	6	4	3
						A評価	9	9	14	15
						B評価	11	12	10	10
						C評価	—	—	—	—
						計	27	27	28	28

主な意見の概要

■ 「次世代通信サービス」(「S」評価)

光データ中継衛星について、世界最高速でのALOS-4との光通信に成功し、従来は不可能であった地球上の広範囲でのリアルタイム観測を可能にしたことや、光通信のみならず電波による通信にて、LEO-地上間として世界最高速の通信を実証したことは特に顕著な成果として評価でき、S評価は妥当である。

■ 「戦略的かつ弾力的な資金供給機能の強化」(「B」評価)

宇宙戦略基金の立ち上げから、第一期の公募を開始するなど、着実に業務運営がなされていると判断できることから、B評価は妥当である。

■ 「新たな価値を実現する宇宙産業基盤・科学技術基盤の維持・強化」(自己評価「S」→「A」)

この項目は、小規模な研究開発の集合であり、国産宇宙用次世代MPU(Micro Processsing Unit)の開発完了、国産小型ホールスラストの開発完了と商業受注の獲得等で顕著な成果を上げた点は高く評価できるが、他の研究開発においては、小型実験機(RV-X^{*1})や1段再使用飛行実験(CALLISTO^{*2})に関して、民間の追い上げを許しつつある状況ということもあり、B評価と評価できるような研究開発も多々見られることから、A評価が妥当である。

法人の全体評価に関する意見の概要

- 観測衛星から光データ中継衛星を経由した地上へのデータ転送、はくりゅう(雲、エアロゾルの全地球的な観測を行う衛星)による世界初の雲の上下の動きの観測の成果など衛星分野で素晴らしい成果があったと思う。
- 日本人宇宙飛行士による2回の月面着陸、日本による与圧ローバ提供を含む「与圧ローバーによる月面探査の実施取決めへの貢献や情報収集衛星に関してS評価となっており、リモートセンシングや宇宙科学・探査以外でのS評価が増えている点は評価できる。

主な意見の概要

■ 「次世代通信サービス」(評定「B」)

光データ中継衛星は2020年の打ち上げ以降、冗長切り替えもなく、安定した運用が継続しており、地球上の広範囲でリアルタイム観測を可能にした点は、評価できる。しかし、ALOS-3を喪失し、ETS-9の状況があまり見通せない状況を勘案するとB評定は妥当である。

■ 「人工衛星等の開発・運用を支える基盤技術」(「A」評定)

宇宙用周波数を保護・確保するための国際ルール策定の場にて、地上系の無線通信との共存、衛星コンステレーション、及びアルテミス計画などへの必要な対応がなされていることや、近地球追跡ネットワーク*1、環境試験設備運営などを民間に委ねる取組*2が進展したことは評価すべき点であり、A評定は妥当である。

■ 「宇宙政策の目標達成に向けた分野横断的な研究開発等の取組」(自己評定「S」→「A」)

「宇宙政策の目標達成に向けた分野横断的な研究開発等の取組」の小項目である「民間事業者との協業等の宇宙利用拡大及び産業振興に資する取組」と「新たな価値を実現する宇宙産業基盤・科学技術基盤の維持・強化」の評定との整合性を図ることが非常に難しい項目ではあったが、A評定が妥当である。

法人の全体評価に関する意見の概要

- H3、イプシロンSなどの宇宙輸送機やインシデントの発生などいくつかの重要な問題が発生しているが、一方で、ALOS-4や、はやぶさ2など観測衛星・宇宙探査機などで、大きな成果を上げている点は評価できる。また、アルテミス計画への取組、政府からの受託事業なども高く評価でき、全体としては、大きくプラスの評価になると考えている。

国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構の令和6年度及び第4期中期目標期間終了時における業務実績に関する評価に対する意見（案）

	令和6年度業務実績評価				第4期中期目標期間終了時における業務実績評価			
	自己評価	A	部会意見	A	自己評価	A	部会意見	A
Ⅲ.3 宇宙政策の目標達成に向けた宇宙プロジェクトの実施	自己評価は妥当である。 イプシロンSに関する問題はあるものの、H3 ロケットについては初号機の後、順調に打ち上げが進められていること、衛星についても問題なく運用されていることなど、他に大きな問題は生じていないため、A 評価が妥当である。 <u>＜翌年度以降に向けた課題・指摘事項＞</u> ● しっかりと、イプシロンSの打ち上げに向けたフォローアップと、イプシロンSで打ち上げ予定の衛星についての対応をお願いしたい。				自己評価は妥当である。 H3 ロケットやイプシロンSの問題等はあるが、総合して顕著な成果の創出があったと認められるため、A 評価が妥当である。 <u>＜翌年度以降に向けた課題・指摘事項＞</u> ● なし			

Ⅲ.3.1 準天頂衛星システム（旧：3.1 準天頂衛星システム等）	自己評価	A	部会意見	A	自己評価	A	部会意見	A
	自己評価は妥当である。 国際 GNSS 事業の解析センター性能向上により国際的位置づけが下位から中上位になった点や、MADOCA の高度化、低周回衛星と準天頂衛星システム衛星の同時軌道クロック推定、軌道上精密単独測位（PPP in Space）等で成果が上がっており、高く評価できる。さらに、今後の我が国の衛星測位システム 11 機体制を構築する第 1 期衛星システム 4 機中、新たに 2 機の開発を受託した点を考慮すると、顕著な成果の創出があったと認められるため、A 評価が妥当である。 <翌年度以降に向けた課題・指摘事項> ● 国際 GNSS 事業の解析センターの性能向上により国際的位置づけが下位から中上位になったこと、軌道上精密単独測位（PPP in Space）の機器開発において研究開発部門の革新プログラムの枠組みを利用して効率的に開発を完了させたこと、将来の我が国の衛星測位システムの 11 機体制を構築する第 1 期衛星システム 4 機中、新たに 2 機の開発を受託したことは顕著な成果として評価できる。今後の取り組みに期待する。 ● 測位精度向上に一層努めていただき、より幅広い国民生活に役立つサービス提供を目指してほしい。				自己評価は妥当である。 今中長期の当初 3 年間は内閣府からの受託業務を着実に遂行していた段階にあったが、その後、MADOCA の性能向上を進め、国際 GNSS 事業の解析センターとして承認されるに至り、現状も更なる性能向上に努めていること、内閣府の高度測位衛星システムの開発に際して 5～7 号機の一部開発の受託・納入、更に、将来の 11 機体制の第 1 期 4 衛星システム中 2 衛星の開発を受託したこと等、顕著な成果が挙げられたと認められるため、A 評価が妥当である。 <翌年度以降に向けた課題・指摘事項> ● 高精度測位サービスを利用したビジネスの促進のためのさらなる積極的な取り組みが期待される。ETS-9 バスの利用などを通じて、後継衛星の高度化を積極的に進めるべきである。 ● 測位精度向上に一層努めていただき、より幅広い国民生活に役立つサービス提供を目指してほしい。 ● 準天頂衛星 5～7 号機に向けたペイロード開発成果を反映して、目標通りの精度向上を目指してほしい。			

Ⅲ.3.2 海洋状況把握・早期警戒機能等	自己評価	S	部会意見	S	自己評価	A	部会意見	A
	自己評価は妥当である。 ALOS-4でのデジタルビームフォーミングの実現、観測幅の拡大及びAIS受信性能の向上で大きな進展が見られている。また、JAXAのMDAに関する取組は内閣府の海洋重点戦略の中でも重要ミッションとして位置付けられており、特に衛星データやAI等の活用によるデータ解析手法の高度化については、継続運用の目的がたち研究開発成果が出口の形になった点においては、当初の計画にはない特に顕著な成果として判断でき、S評価が妥当である。 <u>＜翌年度以降に向けた課題・指摘事項＞</u> ● AIS情報の取得に関するデジタルビームフォーミング技術につき特許を取得したということであるが、情報の機微性に鑑みると、技術を公開したうえで特許を取得するのではなく、trade secretとして秘密管理すべき技術ではないのか。すでに公開してしまったものは変更できないが、今後のため再検討が必要である。（現行法の下では秘密特許にするという選択肢はありうる。） ● どのように民間に移行して、安定的なデータ取得、実利用につなげていくのかの戦略が必要なのではないか。 ● 引き続き、海しるBPなどへの積極的な参画、海外への展開、連携を積極的に進めてほしい。国内での特許の利活用だけでなく、海外利活用の推進を見越した海外特許の取得にも取り組んでほしい。				自己評価は妥当である。 ALOS-2の運用とALOS-4の新規導入によって、期間全体として我が国のMDA能力が大きく向上した点も評価できるが、第4期としてみるとALOS-3喪失の影響もあり、かならずしも当初計画通りというわけではないことから、S評価とまでは評価することは出来ず、A評価が妥当である。 <u>＜翌年度以降に向けた課題・指摘事項＞</u> ● ALOS-3に代わる衛星、システムの検討をスピード感をもって進めてもらいたい。			

Ⅲ.3.3 宇宙システム全体の機能保証強化	自己評価	B	部会意見	B	自己評価	B	部会意見	B
	自己評価は妥当である。 防衛省/防衛装備庁と連携し、ミッションアシュアランス強化等の取組が着実に実施されていると認められ、B 評価が妥当である。 <u>＜翌年度以降に向けた課題・指摘事項＞</u> ● 現状の実績報告であれば B 評価もやむを得ないが、今後、A 以上の評価も可能になるように実績報告の内容・記述を検討してほしい。 ● このまま進めて頂いて問題ないと思いますが、どうすると A 評価が得られるようになるか考えてみてほしい。				自己評価は妥当である。 内閣府や防衛省をはじめとする政府の安全保障関係機関と連携して、計画に基づき、着実に業務運営がなされていると判断ができる点から B 評価が妥当である。 <u>＜翌年度以降に向けた課題・指摘事項＞</u> ● 宇宙システムのセキュリティ強化だけでなく、これを担う人材育成にも、JAXA 内外で引き続き、積極的につとめてもらいたい。			

Ⅲ.3.4 宇宙状況把握	自己評価	A	部会意見	A	自己評価	A	部会意見	A
	自己評価は妥当である。 レーダーの観測精度の向上に取り組み、カタログ化される 10cm 級物体の観測可能高度を現在の 650km から低軌道帯をほぼ全てカバーする 1800km まで向上させた点や、衛星の効果的なマヌーバの実施等により、SSA システムが安定的に運用されており、顕著な成果の創出があったと認められることから、A 評価が妥当である。 ＜翌年度以降に向けた課題・指摘事項＞ ● 宇宙利用の可能性が広がる中、宇宙空間の状況把握は一層重要性が増している。国民生活や宇宙のセキュリティの向上にさらに貢献できるよう、活動を推進していただきたい。 ● SSA のレーダー測定精度を向上させるレーダーシステム改修の早期の完了を望みます。				自己評価は妥当である。 衛星の衝突回避により長期の寿命の維持に貢献した点、政府の SSA 活動への貢献によって国際プレゼンスの向上にも寄与した点及び SSA システム(地上)の整備を、予定の 2023 年度を前倒して 2022 年度中に実運用を開始させるとともに、フルサクセス以上の成果をあげている点は、計画以上の成果として評価できることから、A 評価が妥当である。 ＜翌年度以降に向けた課題・指摘事項＞ ● 宇宙利用の可能性が広がる中、宇宙空間の状況把握は一層重要性が増している。国民生活や宇宙のセキュリティの向上にさらに貢献できるよう、活動を推進していただきたい。 ● 現在の LE0 コンステレーションや、欧州で開発されている LE0+ME0 システムなどもあり、今後は 2000km 程度の高度まで監視できるように SSA システムの整備を進めてもらいたい。			

Ⅲ.3.5 次世代通信サービス（旧：3.10 衛星通信等の技術実証）	自己評価	S	部会意見	S	自己評価	B	部会意見	B
	自己評価は妥当である。 光データ中継衛星に関して、ALOS-4 との波長 1.5 μm 帯で世界最高速 1.8Gbit/s での通信に成功し、従来は不可能であった地球上の広範囲でのリアルタイム観測を可能にしたこと、Ka バンド 2 波伝送システムを ALOS-4 に搭載し、LEO-地上間として世界最高速 3.6Gbit/s を実証したことは特に顕著な成果である。ETS-9 に関しては着実な開発が進められているが、アクティブ熱制御システムで生じた新たな技術課題のため、衛星打ち上げ時期に影響が及んでいるが、当初よりもチャレンジングな開発に取り組んでいることを勘案すると、S 評価が妥当である。 <翌年度以降に向けた課題・指摘事項> ● 宇宙通信の分野が技術開発の一つの焦点になりつつある中で、従事人数を増やしていくことを考えるべきではないか。それにより日本の商用衛星メーカーの競争力向上につながる技術開発を期待したい。 ● 光データ中継衛星に関しては、ALOS-4 との波長 1.5 μm 帯で世界最高速 1.8Gbit/s での通信に成功し、従来は不可能であった地球上の広範囲でのリアルタイム観測を可能にしたこと、研究開発部門の先進的成果を活用した Ka バンド 2 波伝送システムを ALOS-4 に搭載し、LEO-地上間として世界最高速 3.6Gbit/s を実証したことは特に顕著な成果であると判断される。ETS-9 に関しては、期中で大幅な仕様変更に伴うチャレンジングな開発が着実に進められている。アクティブ熱				自己評価は妥当である。 光データ中継衛星は 2020 年の打ち上げ以降、冗長切り替えもなく、安定した運用が継続しており、地球上の広範囲でリアルタイム観測を可能にした点は、評価できる。しかし、ALOS-3 を喪失し、ETS-9 の状況があまり見通せない状況を勘案すると B 評価が妥当である。 <翌年度以降に向けた課題・指摘事項> ● 新たな、低軌道衛星通信サービス等が出てくる中で、どの部分を通信として重点化してゆくか、ETS-9 における実証項目やそれ以降の通信サービスについて検討する必要がある。 ● 宇宙基金等の枠組みをうまく利用することで民間企業の光通信技術高度化およびその宇宙実証を後押しし、世界の衛星通信サービス競争に勝ち抜くことが期待される。世界の通信衛星開発ペースに置いて行かれぬよう、衛星バス・ミッション機器の開発・実証サイクルを早める検討をする必要がある。 ● 地上、LEO との光通信を実現する光データ中継衛星は 2020 年の打ち上げ以降、冗長切り替えもなく、安定した運用が継			

	制御システムで生じた新たな技術課題が衛星打ち上げ時期に影響を及ぼしているが、次期中長期での成果が期待される。 ● 大量の地球観測データを高速でダウンリンクできるのは今後の宇宙利用の大きな推進要素になると思う。ぜひ今回の知見を今後の技術開発に生かしてほしい。 ● 新たな成果が得られたことは評価すべきだが、それが当初目標と比べてどの程度卓越したものなのかを明確にしていきたい。 ● 衛星一地上間の光通信のバックアップ回線として、既存の Ka 帯よりもさらに高い周波数帯の無線通信システムおよびミッション開発も考えて頂きたい。	続きしており、2024 年度には ALOS-4 と 1.8Gbit/s での通信に成功し、地球上の広範囲でリアルタイム観測を可能にする至っており、特に顕著な成果であると判断される。一方、ETS-9 に関しては、静止衛星市場における需要変化に鑑み、期中において仕様を大きく変更し、よりチャレンジングな開発に挑んでおり、打ち上げは次期中長期となるが実証実験を含め、大きな成果と共に、我が国の静止衛星ビジネスへの貢献に期待する。尚、従業員数が今中長期の後半において削減されたが、次期中長期において新たな研究開発等が生じた際には柔軟な対応をお願いしたい。 ● 引き続き、光通信と電波を使った通信（特に高い周波数帯）の両方の手段をバランスよく開発、実用化してもらいたい。また、ETS-9 については、技術の陳腐化がないように適切なタイミングで打ち上げ、宇宙実証を行ってもらいたい。
--	--	--

Ⅲ3.6 リモートセンシング (旧 : 3.5 衛星リモートセンシング)	自己評価	S	部会意見	S	自己評価	S	部会意見	S
	自己評価は妥当である。 ALOS-4 の観測頻度向上が、国内外の防災・災害対策に貢献できることを実証した点は、特に顕著な成果と評価できる。定常観測開始に3ヶ月の遅延が生じたのは残念ではあるがこの点を加味しても特に顕著な成果の創出が認められることから、S 評価が妥当である。 ＜翌年度以降に向けた課題・指摘事項＞ ● EarthCARE に関しては様々な要因が有り遅延していたが、軌道投入され、期待された成果が創出されていることは喜ばしい。 ● 新たな成果が得られたことは評価すべきだが、それが当初目標と比べてどの程度卓越したものなのかを明確にしていきたい。 ● 主要な地球観測衛星／搭載センサに関する学術論文数の推移において、最近の論文数が減少傾向にある。ALOS-3 喪失の影響なのか、あるいは、他に原因があるのかを解析してほしい。				自己評価は妥当である。 GOSAT をはじめとする6つの観測衛星を運用し、地球レベルの環境問題に貢献した点や、災害時等、衛星データを防災機関や自治体等へ迅速に提供し、減災に役立てる仕組みが広く普及したことで、海外においてもセンチネルアジア等を通じて、災害後の相互支援・互恵関係構築に貢献したことは、特に顕著な成果の創出が認められることから、S 評価が妥当である。 ＜翌年度以降に向けた課題・指摘事項＞ ● 過去に何度も指摘しているが、基礎的な技術開発を超えたデータ利用の社会実装について、民間部門との役割分担が必要である。前年度の意見に対する改善策として民間への技術移転にも取り組むと書かれているが、その成果は出ているのかについて明確になっていない。 ● 衛星データのオープン＆フリー化や幅広い産業でのデータ利用促進にも、目標を掲げて積極的に取り組むことが望ましい。 ● 多発する災害対応、地球温暖化による自然環境への影響など、地球観測衛星の重要性は増している。後継機開発も含め、持続可能な観測体制の整備を進めてほしい。 ● ALOS-3 に代わる衛星、システムの検討をスピード感をもって進めてもらいたい。			

Ⅲ.3.7 人工衛星等の開発・運用を支える基盤技術 (追跡運用技術、環境試験技術等)	自己評価	A	部会意見	A	自己評価	A	部会意見	A
	自己評価は妥当である。 周波数に関する国際ルール策定について継続して重要な役割を果たしていることに加え、小型衛星(CE-SAT-IE)に搭載したSLR反射器(Mt. Fuji)等の基礎技術の開発を実施しており、総合して顕著な成果の創出があったと認められるため、A評価が妥当である。 <u>＜翌年度以降に向けた課題・指摘事項＞</u> ● JAXAの技術力や取り組みがなければ安定した運用や民間参入は難しいので、今後も着実に技術開発、調整に取り組んでほしい。 ● 周波数管理事業の業務量の増加が継続するものであれば、WRC、ITU-Rに参加する人材をしっかりと確保して、必要に応じて増員、育成するようにしてもらいたい。				自己評価は妥当である。 宇宙用周波数を保護・確保するためのWRCやITU-Rなどの国際ルール策定の場合のJAXAの参画が求められる中、地上系との共存、衛星コンステレーション、及びアルテミス計画などへの必要な対応がなされていることや、近地球追跡ネットワーク、環境試験設備運営などを民間に委ねる取り組みが進展したことは評価すべき点であり、A評価が妥当である。 <u>＜翌年度以降に向けた課題・指摘事項＞</u> ● 周波数管理事業の業務量の増加が継続するものであれば、WRC、ITU-Rに参加する人材をしっかりと確保して、必要に応じて増員、育成するようにしてもらいたい。			

Ⅲ.3.8 宇宙科学・探査	自己評価	S	部会意見	S	自己評価	S	部会意見	S
※「宇宙科学に関する学術研究」については、文部科学省のみが評価を担当。	自己評価は妥当である。 SLIMによる越夜は、想定外の越夜に関するデータが取得できたことで、越夜の分析や応用の道筋を示すことができたという点で、今後の月探査への波及効果が非常に大きいことが予測される。また、XRISMにおいてもゲートのトラブルがあったにもかかわらず、貴重な成果を得ている点について高く評価でき、特に顕著な成果と判断できることから、S評価が妥当である。				自己評価は妥当である。 第4期期間中 S 評価が続いていることに加え、はやぶさ2のサンプルリターンの成功等、特に顕著な成果が多数見られることから、S評価が妥当である。			
	＜翌年度以降に向けた課題・指摘事項＞ ● 覚書を締結や NASA の採用は素晴らしい成果であるので、継続して頑張ってもらいたい。 ● 世界を圧倒的にリードするはやぶさ2、はやぶさ2#に加え、SLIM、エックス線天文学など、宇宙科学が目指すべき目標を確実に達成するとともに、目標を超える成果も上げている。今後に向けて、新たなチャレンジングなプロジェクトをアカデミアとともに計画、実現を目指し、日本ならではの宇宙科学の世界を示してほしい。プラネタリー・ディフェンス分野での成果も期待したい。 ● これまで得られた知見を、しっかりと論文などで世界に成果発信をしていてもらいたい。				＜翌年度以降に向けた課題・指摘事項＞ ● 世界で初めて「ピンポイント月面着陸」に成功したことは素晴らしいが、月面着陸が世界で5番目ということ踏まえると、「今後の国際月探査計画における日本のプレゼンスを大きく向上させ、また新しい月面探査ミッションの可能性を大きく広げることが期待される。」は楽観的ではないか。 ● 科学的アウトプットを学術界だけでなく広く国民へ還元することを常に念頭に置いておいていただきたい。 ● 次期中長期では、研究開発部門等との更なる連携のもと、効率的な研究活動に期待する。 ● 月に関しては、民間がすぐにキャッチアップできる位置にあるようにも見える。先行位置を確保し続ける努力が求められる。 ● NASA や ESA に比べ小さな予算規模で世界最先端の科学的知見を得ている宇宙科学分野の取り組みは高く評価できる。			

		一方で、円安や物価高、国際情勢変化への対応も鑑みて、今後同様のレベルの活動を維持発展させるのに適切なリソースは何なのかを見直す必要はないか。
--	--	--

Ⅲ.3.9 月面における持続的な有人活動（旧：3.7 国際宇宙探査）	自己評価	A	部会意見	A	自己評価	A	部会意見	A
	自己評価は妥当である。 有人と圧ローバー、探査ロードマップ改訂等、今後の月における活動を目指した重要な成果が創出された点や、日本人宇宙飛行士による月面着陸の機会を2回確保したことにより、今後の国際宇宙探査活動において日本の活躍が期待されることとなったことから、顕著な成果の創出が認められ、A評価が妥当である。 ＜翌年度以降に向けた課題・指摘事項＞ ● アルテミス計画において日本の存在感を確保する取り組みが着実に進められている。ただ、米国の状況は不確実性を増しており、今後も状況を丁寧にフォローし、これまでの取り組みが実を結ぶよう取り組んでほしい。アルテミス、LUPEXとともに海外機関との共同プロジェクトであり、開発の進捗など綿密な連携を図ってほしい。 ● 米国の政策が大きく変更される中、必要に応じて、柔軟に日本側の計画を見直せるようにしてほしい。				自己評価は妥当である。 長年のきぼう実験モジュールや HTV 開発の取り組みが総合的に評価され、世界初の月面システムである有人と圧ローバーの開発・運用の担当、日本人宇宙飛行士による2回の月面着陸の機会確保、環境制御・生命維持システム(ECLSS)やゲートウェイへの物資補給の分担など、高い実績を上げており、顕著な成果の創出が認められることから、A評価が妥当である。 ＜翌年度以降に向けた課題・指摘事項＞ ● 国際協力が必須な領域であることはもちろんであるが、他国の動向に依存しない JAXA としての「実現したいこと」を確立し、取り組みを進めてほしい。 ● 米国の月計画が不透明となる中、多様で柔軟な対応の準備が必要であろう。 ● 米国の政策が大きく変更される中、他国との連携を強めて、柔軟に日本側の計画も見直せるようにしてほしい。			

Ⅲ. 3. 10 地球低軌道活動 (旧 : 3. 8 ISS を含む地球低軌道活動)	自己評価	B	部会意見	B	自己評価	A	部会意見	A
	自己評価は妥当である。 米田、諏訪両氏の飛行士認定などもあり、ISS での運用も問題なかったと判断できるが、民間への広がりには十分ではないと思われる。しかし、「きぼう」の有償利用が進展したことは評価すべき点であり、着実に業務運営を進めていることから B 評価が妥当である。 ＜翌年度以降に向けた課題・指摘事項＞ ● 地球低軌道が民間活動中心に移行する中で、JAXA の役割が残るのか残らないのかについて明示的な議論を開始していただきたい。 ● ポスト ISS に向け、一層 LE0 利用の実績を重ねるとともに、関係者との連携を深めたり拡大したりしてほしい。宇宙医学研究の体制立て直しについても、真摯な姿勢で着実に取り組むことが求められる。 ● 民間の ISS 利用の広がりをもう少し追求してほしい。				自己評価は妥当である。 「きぼう」を利用した数々のビジネスが誕生し、有償利用も前中期期間比 3.88 倍に増大した点は、計画以上の成果として評価できることから、A 評価が妥当である。 ＜翌年度以降に向けた課題・指摘事項＞ ● 期間中に発覚した研究不正事案は重大な問題ではあったが、監事の意見にもあったとおり、対応力の強さを発揮して取り返したと考える。 ● 2030 年まで時間もないので、ISS 利用民間主導をも明確な目標を掲げて進めることが望ましい。 ● ISS の老朽化が進んでいるようですので、運用終了を意識しながら計画を進めてもらいたい。			

Ⅲ.3.11 宇宙輸送（旧：3.9 宇宙輸送システム）	自己評価	B	部会意見	B	自己評価	B	部会意見	B
	自己評価は妥当である。 H3 ロケットの連続成功、民間衛星受注等は重要な成果である一方、イプシロン S 不具合等が課題となっており、十分な対策ができていない状況が続いていることから、B 評価が妥当である。 ＜翌年度以降に向けた課題・指摘事項＞ ● H3 ロケット 30 形態の試験機打ち上げが、実用機打ち上げと混同されないように細心の配慮が必要。 ● 宇宙輸送の信頼性向上をさらに進化させてほしい。K に対して民間の受注が増えている状況も明るい話題だと思う。一方、イプシロン S については原因究明にやや時間がかかっている印象がある。状況の把握が難しいのだろうと思うが、打ち上げ実現に向け一層の努力を期待したい。 ● 商業受注の獲得はロケットのそのものの研究開発と異なるビジネスサイド（営業、生産・量産、デリバリーのサービス設計など）の要素が含まれるので、民間事業者（MHI）などと協議連携の上での推進を期待します。一方で基幹ロケットとしての役割がありますため、どこまで商業受注を求めるのかなどもしっかりと議論をいただければと思いました。 ● 引き続き、H3 の運用を慎重に進めてもらいたい。一方で、イプシロン S については、まだしばらく時間がかかるかもしれ				自己評価は妥当である。 H3 ロケットについては、初号機に衛星を乗せたうえで失敗しているが、その後にリカバリーの取り組みを実施している点は評価できる。しかし、イプシロン S については、未だリカバリーができおらず、HTV-X の遅れについても加味すると B 評価が妥当である。 ＜翌年度以降に向けた課題・指摘事項＞ ● 民間企業による固体ロケット、再使用ロケットの開発もあり、それらを含めた日本の将来的な輸送サービス全体像に基づく JAXA 方針の再検討も必要ではないか。 ● H3 ロケット TF1 以降の不具合箇所数が大幅な低減傾向を示しており、今後の安定した打ち上げ成功を期待する。一方、イプシロン S は大きな壁に直面しているが、地道な着実な課題解決に期待する。 ● イプシロン S モータ燃焼試験の失敗を何度か繰り返すのはある程度仕方がないと思うが、試験設備の損傷、修理などの期間、予算なども考えて、しっかり計画をたてて進めてもらいたい。			

	ないが、確信を持てるまで待つて、打ち上げに臨んでもらいたい。	
--	--------------------------------	--

Ⅲ.4 宇宙政策の目標達成に向けた分野横断的な研究開発等の取組	自己評価	A	部会意見	A	自己評価	S	部会意見	A
	自己評価は妥当である。 Ⅲ.4.1とⅢ.4.2を比較すると、運営人数の面において、Ⅲ.4.2の方がはるかに人員を割いており、全体的な資金や人材という観点において、Ⅲ.4.2にウェイトを置いているように判断できることから、Ⅲ.4.2の成果を考えるとA評価が妥当である。 <u>＜翌年度以降に向けた課題・指摘事項＞</u> ● なし				A評価が妥当である。 多くの事業に取り組まれていることは素晴らしいが、成果を考えるとA評価が妥当である。 <u>＜翌年度以降に向けた課題・指摘事項＞</u> ● ISSの民間利用の推進、事業化はこのままでは大きく伸びていかないように思われる。何らかの対策（施策）が必要ではないだろうか。			

Ⅲ. 4. 1 民間事業者との協業等の宇宙利用拡大及び産業振興に資する取組	自己評価	B	部会意見	B	自己評価	A	部会意見	A
	自己評価は妥当である。 共創活動成果の事業化 3 件の形成 (2023 年度 2 件。累計 14 件)、共創活動における民間自己投資 2 億円の引き出し (2023 年度 3 億円。累計総額 40 億円超) とあるが、特に今年度、大きな伸びがあったようには見えないことから、B 評価が妥当である。 ＜翌年度以降に向けた課題・指摘事項＞ ● 民間との協業は今後さらに重要になる。JAXA の適切な支援、リードによって、宇宙分野に関心を持ち、成果を出せる企業が増えることを期待している。ぜひ次年度以降は、A 評価を目指してほしい。 ● 「産業振興・宇宙利用拡大策」国の支援策と連動した具体的な施策展開のグラフにあるような事業化に向けた右肩上がりの成長とするには何が不足しているのかを考えてみる必要があるのではないだろうか。				自己評価は妥当である。 J-SPARK 等の取り組みを通じて、多様な企業の参加や宇宙ベンチャー企業の育成に寄与したことは高評価に値し、顕著な成果の創出があったと認められるため、A 評価が妥当である。 ＜翌年度以降に向けた課題・指摘事項＞ ● 宇宙戦略基金業務との併任により、2024 年度の従業員数が半減しており、年度評価も 2018 年度から 2023 年度までは A であったが、2024 年度は B となっている。次期中長期での、本部門のあり方についての再整理が必要ため、その取り組みに期待する。 ● 民間との協業においては、JAXA 側で対応する人材、民間分野の活動やニーズに明るい人材の確保が欠かせない。持続的な取り組みと民間発のブレークスルーを目指せる体制整備も進めてほしい。 ● どのような事業化をターゲットにするのかを明確にしたうえで、具体的な年度ごとの計画を立てていく必要がある時期になっているように思われる。			

Ⅲ.4.2 新たな価値を実現する宇宙産業基盤・科学技術基盤の維持・強化（スペース・デブリ対策、宇宙太陽光発電含む）	自己評価	S	部会意見	A	自己評価	S	部会意見	S
	A 評価が妥当である。 この項目は、小規模な研究開発の集合であり、国産宇宙用次世代 MPU の開発完了、国産小型ホールスラストの開発完了と商業受注の獲得等で顕著な成果を上げた点は高く評価できるが、他の研究開発においては、小型実験機（RV-X）や 1 段再使用飛行実験（CALLISTO）に関して、民間の追い上げを許しつつある状況ということもあり、B 評価と評定できるような研究開発も多々見られることから、A 評価が妥当である。 <u>＜翌年度以降に向けた課題・指摘事項＞</u> ● 開発された次世代 MPU の商業化、さらに民生製品への応用に積極的に取り組まれることが望ましい。 ● 国産製品・国産技術が重要、Blackbox 化を防ぐ、素晴らしいと思う。これらからも期待したい ● デブリ対策に関する成果は特筆すべきものだと思う。一方、今後については CALLISTO など期待の大きい分野の技術開発の進捗もカギを握ってくると考える。 ● 商業デブリ除去実証のフェーズⅡに期待しています。				自己評価は妥当である。 宇宙科学・探査分野では、はやぶさ 2 のピンポイント着陸を実現させた航法誘導制御及びサンプルリターン技術の研究開発、2024 年度には SLIM スラスト破壊メカニズムの解明等が評価書で報告されており、第 4 期全体として多様なプログラム・プロジェクトでそれぞれ優れた成果を上げており、第 4 期で開発した個別技術は重要かつ実用的なものが多い。これらの点から、特に顕著な成果の創出があったと認められ、S 評価が妥当である。 <u>＜翌年度以降に向けた課題・指摘事項＞</u> ● 毎年、複数の優れた研究成果が得られているが、年度の自己評価は、研究開発が完了した項目の S、A の項目数に従って行われており、B 項目の状況や、遅延項目については従来勘案されていない。2024 年度の評価では、RV-X、CALLISTO という重要プロジェクトの年単位での遅延について文言で触れられているが、評価方法自体は従前と同一であり、300 名超という JAXA 内では大規模な組織の評価方法としては更なる検討が必要に感じられる。（例えば、プロジェクト、研究項目に重みを設定し、評価は全てのプロジェクト、研究項目の評定に重みを考慮した加重平均により、定量的に評価する等が考えられる。）また、事業部門への貢献、連携も重要であるため、連携のあり方について更に検討し、研究開発部門の成果が JAXA 全体の成果に効率よく波及することに期			

		待する。更に、事業部門への貢献度も自己評価に加味願いたい。 ● デブリ対策に関する成果は特筆すべきものだと思う。一方、今後についてはカリストなど期待の大きい分野の技術開発の進捗もカギを握ってくると考える。 ● 宇宙太陽光発電、再利用ロケットなどの課題に今後どのように取り組むべきかを、再考する時期にきていると思います。
--	--	---

Ⅲ.6 戦略的かつ弾力的な 資金供給機能の強化 ※ 令和5年度の目標変更 により新設。	自己評価	B	部会意見	B	自己評価	B	部会意見	B
	自己評価は妥当である。 宇宙戦略基金の立ち上げから、着実に業務運営がなされていると判断できることから、B評価が妥当である。 <u>＜翌年度以降に向けた課題・指摘事項＞</u> ● 新しい取組に期待。資金供給事務処理における内部統制（内部牽制）や支援先のモニタリングについて今後適切なプロセスを構築して頂きたいと思います。 ● 人材のアロケーションや調達に非常にご苦労されていると思いますが、素晴らしい取り組みが多いので、是非 JAXA 内のナレッジシェアの仕組みの構築などにも注力いただきたいです（兼務人材だけで対応することは属人的になりやすいことや、業務の繁忙により機能しなくなることが多いです。） ● まだ、立ち上げ途中であり、採択されるプロジェクトの妥当性の検証、第2期公募に向けた準備と体制構築、人材の確保と課題が山積しているが、引き続き、頑張ってもらいたい。				自己評価は妥当である。 宇宙戦略基金の配分機関としての立ち上げは、ここにきて着実に進んでいると判断でき、期間全体としては B 評価が妥当である。 <u>＜翌年度以降に向けた課題・指摘事項＞</u> ● 新しい取組に期待する。資金供給事務処理における内部統制（内部牽制）や支援先のモニタリングについて今後適切なプロセスを構築して頂きたいと思います。 ● 宇宙戦略基金の運営を巡っては、民間分野の活動やニーズに関する知見・能力を持つ人材の確保がさらに課題になると思われる。持続的な取り組みを実現するために人的、組織的な体制整備を推進してほしい。JAXA 内でも連携を密にして、民間のニーズに対応できる体制を作っていくことが必要ではと思う。 ● まだ、立ち上げ途中であり、採択されるプロジェクトの妥当性の検証、第2期公募に向けた準備と体制構築、人材の確保と課題が山積しているが、引き続き、頑張ってもらいたい。			

Ⅲ. 7 宇宙航空政策の目標 達成を支えるための取組	自己評価	A	部会意見	A	自己評価	A	部会意見	A
	自己評価は妥当である。 Ⅲ. 7 の各項目については、S, A, B と評価が分かれており、全体的に見ると、顕著な成果の創出があったと認められるため、A 評価が妥当である。 <u>＜翌年度以降に向けた課題・指摘事項＞</u> ● なし				自己評価は妥当である。 第 4 期中長期期間全体として、顕著な成果の創出があったと認められるため、A 評価が妥当である。 <u>＜翌年度以降に向けた課題・指摘事項＞</u> ● 将来の JAXA、我が国の宇宙事業の専門人材をいかに育成していくか、発展させていくのか、あるいは、米国の政策が揺れ動く中で、我が国の宇宙政策はどうあるべきかなど、様々な面で計画を見直す必要が出てくると思うが、適切なタイミングで躊躇なく見直してほしい。			

Ⅲ. 7.1 国際協力・海外展開の推進及び調査分析	自己評価	S	部会意見	S	自己評価	A	部会意見	A
	自己評価は妥当である。 「与圧ローバーによる月面探査の実施取決め」が文部科学大臣、NASA 長官間で署名された点や、PRSAF や二国間の宇宙イベントの開催など積極的な活動が行われ、国際協力推進において特に顕著な貢献があったと判断できることから、S 評価が妥当である。 ＜翌年度以降に向けた課題・指摘事項＞ ● 今後ますます重要となる分野であり、各国が模索する中で、日本の強みを生かしてプレゼンスを高め、最新情報を得られるような好循環を期待したい。 ● アルテミス計画に向けた国際協力が順調に進み、将来への期待が膨らむ年度になったと思う。ただ、米国の状況や関係性が従来とは異なる側面も出てきている昨今、現状がそのまま確定的に進まない可能性もあると考えるべきではないか。このため、S 評価に甘んじることなく今後も努力や調整を続けることが欠かせないと思う。 ● 米国では、大きな政策転換が行われており、適切な時点での計画見直しが必要とる可能性が高い。関係国と連携しての対応が望まれる。				自己評価は妥当である。 近年、アルテミス計画やゲートウェイ等、積極的な宇宙外交が展開されており、急速に国際協力において進展があったと判断できるが、第4期全体としてはA評価が妥当である。 ＜翌年度以降に向けた課題・指摘事項＞ ● 国際的なマッチングの場として、ISTS と APRSAF に相補的な関係が構築できないか検討されたい。 ● アルテミス計画に向けた国際協力が順調に進み、将来への期待が膨らむ年度になったと思う。ただ、米国の状況や関係性が従来とは異なる側面も出てきている昨今、現状がそのまま確定的に進まない可能性もあると考えるべきではないか。このため、S 評価に甘んじることなく今後も努力や調整を続けることが欠かせないと思う。 ● 米国では、大きな政策転換が行われており、適切な時点での計画見直しが必要とる可能性が高い。関係国と連携しての対応が望まれる。			

Ⅲ.7.2 国民の理解増進と次世代を担う人材育成への貢献	自己評価	A	部会意見	B	自己評価	A	部会意見	A
	B評価が妥当である。 様々な場面で積極的なメディア対応、メディア利用が行われ、国民の理解増進に貢献したことは評価できるが、顕著な成果及びチャレンジングな成果の創出は見られないことから、B 評価が妥当である。 <u>＜翌年度以降に向けた課題・指摘事項＞</u> ● 次世代向けの情報発信と併せて、「Ⅴ.財務内容の改善に関する事項」の自己収入拡大につながる高齢世代への情報発信も効率的に行えると良いと思います。 ● 優秀な人材を引き込むべく、人材の取り合いはどこの業種も同じ。これからも民間など、あらゆる創意工夫を取り入れ、様々な挑戦に期待したい。 ● JAXA に対しては近年、社会の受け止め、視線が基本的に「味方」の傾向が強まっており、ネガティブなイベントがない状況であれば、より高成果を目指すべきではないかと考える。広報や発信、海外での認知度向上、JAXA が持つさまざまな「素材」の活用・提供など、従来とは異なる取り組み、従来とは異なる層へのリーチなどの取り組みを深めるべきではないかと考える。NASA、ESA などの「手厚い」取り組みも参考に、より高いレベルを目指してほしい。 ● 既存のメディアだけでなく、インターネットなどを使った広報のスタイルが定着してきたと思う。一方で人材育成につい				自己評価は妥当である。 多様な取り組みで、国民の理解増進と次世代を担う人材育成への貢献がなされており、顕著な成果の創出があったと認められるため、A 評価が妥当である。 <u>＜翌年度以降に向けた課題・指摘事項＞</u> ● 次世代向けの情報発信と併せて、Ⅴの自己収入拡大につながる高齢世代への情報発信も効率的に行えると良いと思います。 ● 海外への発信の機会として我が国が主催する ISTS 国際会議の積極的な利用に期待する。 ● JAXA に対しては近年、社会の受け止め、視線が基本的に「味方」の傾向が強まっており、ネガティブなイベントがない状況であれば、より高成果を目指すべきではないかと考える。広報や発信、海外での認知度向上、JAXA が持つさまざまな「素材」の活用・提供など、従来とは異なる取り組み、従来とは異なる層へのリーチなどの取り組みを深めるべきではないかと考える。NASA、ESA などの「手厚い」取り組みも参考に、より高いレベルを目指してほしい。 ● 幅広く国民全体に対して広報してだけでなく、これからの人口減少の時代に今後の宇宙事業に実際に携わってくれる専門人材を如何に育成していくのかも考える時期にき			

	ては、宇宙に興味を持たせる間口の広い取り組みは行われているが、実際に JAXA に入ってくれるような、あるいは、民間で宇宙事業に取り込む人材を育てられているのか疑問がある。	たと思われる。
--	---	----------------

Ⅲ.7.3 プロジェクトマネジメント及び安全・信頼性の確保	自己評価	B	部会意見	B	自己評価	B	部会意見	B
	自己評価は妥当である。 イプシロン S はまだ打ち上げられる状態にはなっていないが、H3 ロケットが順調に打ち上げられるようになった点は評価できる。マネジメント改革の具体的な取り組み、フロントローディングのルールの明確化及び明文化等は、着実に進められていることから、B 評価が妥当である。 <u>＜翌年度以降に向けた課題・指摘事項＞</u> ● ガバナンスとしてのリスク管理についても検討をすべきである。 ● 100 点満点はない領域ですので、引き続きの改善取組に期待します。 ● ヒアリングでも発言したとおり、プロジェクトマネジメントとデブリ対策を同一の項目において評価することの可否を検討されたい。 ● イプシロン S ロケットの再地上燃焼試験の実施判断を検証し、必要ならマネジメントルールへのフィードバックをお願いしたい。 ● 輸送機の不具合により衛星打ち上げ遅延に対する対応（マネジメント）がこの項目には含まれないとすると、JAXA 評価のどの項目で評価すべきか、明確でない点は問題である。				自己評価は妥当である。 第 4 期全体としては、H3 初号機に ALOS-3 を搭載し、喪失してしまった際の JAXA としての対応の問題、現在も続いているイプシロン S の問題等及びプロジェクトマネジメントの問題があったと判断できるが、改善に向けて着実に業務運営がなされていることから、B 評価が妥当である。 <u>＜翌年度以降に向けた課題・指摘事項＞</u> ● 100 点満点はない領域ですので、引き続きの改善取組に期待します。 ● 期間の前半は A ないし S 評価であったが、後半は評価が下がっている。危機感をもって対応する必要があるのではないか。 ● ある程度の改善は果たしたものの、未だにプロジェクトマネジメントはこれでよいというレベルには達していないと思われる。イプシロン S の対応を通じて、引き続き、プロジェクトマネジメントの改善を図ってほしい。			

Ⅲ.7.4 情報システムの活用と情報セキュリティの確保	自己評価	B	部会意見	B	自己評価	B	部会意見	B
	自己評価は妥当である。 以前に発生したセキュリティ事案を踏まえ、改善に取り組んでいると判断できることから、B 評価が妥当である。 ＜翌年度以降に向けた課題・指摘事項＞ ● 情報セキュリティインシデントの発生リスクが0になることはないので本当に大変かと存じますが引き続きの対応をお願いします。 ● 本項目は問題が発生しないことが当然とされがちであり、どのような場合に A・S 評価となるのかを考えてほしい。 ● AI 利活用のルールは検討中のこと、期待しています。 ● インシデントが起こらないことが一番よいが、発生してしまったインシデントを早期に発見し、対策することも重要である。引き続き、努力を続けてほしい。				自己評価は妥当である。 リモートワークや働き方改革で、情報セキュリティのインシデントが発生しやすい状況となっている中で、問題が生じてきてはいるものの、それなりの対策がなされていると判断できることから、B 評価が妥当である。 ＜翌年度以降に向けた課題・指摘事項＞ ● 情報セキュリティインシデントの発生リスクが 0 になることはないので本当に大変かと存じますが引き続きの対応をお願いします。 ● 情報システムの使いやすさと、セキュリティ対策は相反することが多いが、セキュリティ重視の方向で、うまくバランスをさせていってほしい。			

Ⅲ. 7. 5 施設及び設備に関する事項	自己評価	A	部会意見	A	自己評価	A	部会意見	A
	自己評価は妥当である。 電力系インフラ保全、耐災害性への対策が着実に進んでおり、ICT 保全サービスの適用によりインフラメンテナンス優秀賞を受賞した点は、積極的な効率化の取り組みがなされたと評価でき、A 評価が妥当である。 <翌年度以降に向けた課題・指摘事項> 「・・・確実な維持・運用と有効活用を進めるため、老朽化した施設・設備の更新、自然災害対策・安全化等のリスク縮減、エネルギー効率改善及びインフラ長寿命化をはじめとする行動計画を策定し、確実に実施」という観点で、着実に素晴らしい実績をあげていると評価するも、長年にわたり毎年 A 評価ということに鑑みると、現在の高度な営繕がすでに標準レベルなのではないかという印象も受けます。 - 各施設の老朽化やスペース不足について言及があり、現地訪問でもその声を聞いた。改善が進むことを願っており、課題への対応時期や方針に期待している。 - さまざまな施設、設備などの老朽化対策、管理の省力化、ITC 化の推進は、日本全体の課題でもある。JAXA 以外でも可能な取り組みがあれば、社会全体での共有化も進めてほしい。 - 引き続き、計画的な保全、設備更新を行ってほしい。				自己評価は妥当である。 第 4 期期間はほぼ A 評価が続いており、全体としても A 評価が妥当である。 <翌年度以降に向けた課題・指摘事項> - さまざまな施設、設備などの老朽化対策、管理の省力化、ITC 化の推進は、日本全体の課題でもある。JAXA 以外でも可能な取り組みがあれば、社会全体での共有化も進めてほしい。 - 電力、給水などのインフラ、建物などの対策が一段落した時点で、管制系などの重要インフラ設備についても老朽化対策を十分に取ってほしい。			

Ⅲ. 8 情報収集衛星に係る 政府からの受託	自己評価	S	部会意見	S	自己評価	A	部会意見	A
	自己評価は妥当である。 極秘事項や詳細不明点が多いが、現状 JAXA がシステム開発を担当した光学衛星 2 機、レーダー衛星 2 機からなる情報収集衛星システムが国の担当機関と、その顧客である省庁等からの満足度が非常に高く、更に将来のシステム構想設計を受託した点を含め、特に顕著な成果であると判断することができることから、S 評価が妥当である。 <u>＜翌年度以降に向けた課題・指摘事項＞</u> ● 衛星の実力をさらに引き出し、ユーザーのニーズや、それを上回るデータ提供につなげてほしい。さらに、それが国民生活の安全・安心につながるよう目指してほしい。 ● これまでキャッチアップを目指して進めてきた情報収集衛星であるが、これからの開発について、しっかりとロードマップを作成して進めてほしい。				自己評価は妥当である。 第 4 期全体としては、内閣衛星情報センター（CSICE）との連携のもと、4 機体制の能力向上と 10 機体制の確立に向けた活動を進展させた点から、顕著な成果の創出があったと判断でき、A 評価が妥当である。 <u>＜翌年度以降に向けた課題・指摘事項＞</u> ● 本中長期では、国の情報収集衛星システム構築への顕著な貢献が認められる。一方、安全保障衛星事業を超えた JAXA 全体への貢献、波及効果に関しても検討をお願いしたい。 ● これまでキャッチアップを目指して進めてきた情報収集衛星であるが、これからの開発について、しっかりとロードマップを作成して進めてほしい。			

IV 業務運営の改善・効率化に関する事項	自己評価	B	部会意見	B	自己評価	B	部会意見	B
	自己評価は妥当である。 宇宙戦略基金事業部の設置、契約制度の見直しや体制面の整備などが的確に行われている点から、B 評価が妥当である。 <u>＜翌年度以降に向けた課題・指摘事項＞</u> - 合理的な業務運営に向けた不断の見直しが行われていると評価する。一方で、「・・・これ以上の無理な経費削減を進めると、結果として管理業務の遂行に著しい支障を来す可能性もある・・・」旨の記載があり、過度な削減要請はしばしば不祥事の温床ともなりかねないことから、現実には無理が生じているのであれば、関係省庁含め、実態に合った柔軟な対応の検討も必要と考えます。 - 宇宙戦略基金の配分機関としての体制整備、人材登用を積極的に進めてほしい。				自己評価は妥当である。 第 4 期中長期目標期間において、JAXA に求められる多様な役割に対応できるよう、J-SPARC をはじめとする新たな組織の設置又は組織再編が的確に実施されている点から B 評価が妥当である。 <u>＜翌年度以降に向けた課題・指摘事項＞</u> - 合理的な業務運営に向けた不断の見直しが行われていると評価する。一方で、「・・・これ以上の無理な経費削減を進めると、結果として管理業務の遂行に著しい支障を来す可能性もある・・・」旨の記載があり、過度な削減要請はしばしば不祥事の温床ともなりかねないことから、現実には無理が生じているのであれば、関係省庁含め、実態に合った柔軟な対応の検討も必要と考えます。 - 宇宙戦略基金の配分機関としての体制整備、人材登用を積極的に進めてほしい。			

V 財務内容の改善に関する事項	自己評価	B	部会意見	B	自己評価	B	部会意見	B
	自己評価は妥当である。 年度計画の予算、収支計画、資金計画に基づき概ね計画どおりに業務を実施されており、B 評価が妥当である。 ＜翌年度以降に向けた課題・指摘事項＞ ● 自己収入拡大に向けた様々な取組を評価する。近年多くの法人が遺贈寄付獲得に動いているが、まだまだ制度自体の認知度が低い。今後制度がより浸透すれば、JAXA の圧倒的ブランド力を生かした収入拡大が期待できると思います。				自己評価は妥当である。 2023 年度に宇宙戦略基金が設置され、それ以降、宇宙戦略基金勘定、その他の経理の一般勘定ともに、概ね計画通りに実施されている。自己収入増の取り組みもなされていることから、B 評価が妥当である。 ＜翌年度以降に向けた課題・指摘事項＞ ● 自己収入拡大に向けた様々な取組を評価する。近年多くの法人が遺贈寄付獲得に動いているが、まだまだ制度自体の認知度が低い。今後制度がより浸透すれば、JAXA の圧倒的ブランド力を生かした収入拡大が期待できると思います。			

VI.1 内部統制	自己評価	B	部会意見	B	自己評価	B	部会意見	B
	自己評価は妥当である。 過去に発生した事案に対して、内部統制の課題の特定、見直し及び意識改革などがなされているが、引き続きの対策が期待される。着実な業務運営がなされていると判断できるため、B 評価が妥当である。 <u>＜翌年度以降に向けた課題・指摘事項＞</u> ● 各種ハラスメントやコンプライアンス違反については、研修等の対応に加えて、発生時の内部通報制度の実効性確保についての検証等も記載して頂くと尚良いと思います。 ● 研究不正対策については、「一段落」ととらえるのではなく、その原因となった組織文化、体制の脆弱性、職員の意識の低さについて不断の見直しが求められている。その点、肝に銘じて取り組んでほしい。 ● まだ、内部統制の課題は十分に対策されているとは言えないと思いますので、引き続き、改善と教育をお願いします。				自己評価は妥当である。 第4期期間中に発生した事案に対して、問題としての把握が十分でなかった点等、反省すべき点はあったと思われる。その後、内部統制の改善が諮られてきていると判断できるため、B 評価が妥当である。 <u>＜翌年度以降に向けた課題・指摘事項＞</u> ● 各種ハラスメントやコンプライアンス違反については、研修等の対応に加えて、発生時の内部通報制度の実効性確保についての検証等も記載して頂くと尚良いと思います。 ● まだ、内部統制の課題は十分に対策されているとは言えないと思いますので、引き続き、改善と教育をお願いします。			

VI.2 人事に関する事項	自己評価	B	部会意見	B	自己評価	A	部会意見	A
	自己評価は妥当である。 積極的な職員採用、仕事に対するモチベーション向上のための制度改正や心理的安全性・ハラスメントフリーな職場環境づくり、カムバック採用などが行われており、着実な業務運営がなされていると判断できることから、B 評価が妥当である。 ＜翌年度以降に向けた課題・指摘事項＞ ● 限られたリソース活用の観点から、リスクリングやマルチスキル化の取組についても記載して頂くと尚良いと思います。 ● どの組織でも同様だが、JAXA のような専門家集団において、人材は何よりも重要である。JAXA の業務が拡大する中、評価項目の全体で「人員不足」が課題となっていることは深刻にとらえるべきではないか。限られた財源の中で容易ではないかもしれないが、必要な人員は確実に確保し、意欲ある職員がきちんと評価されるよう取り組みを進めてほしい。 ● 運営費交付金の人件費が増額できたことで、様々な対策が取れるようになった点は喜ばしい限りである。これまでの外部資金に頼った対策とはことなり、かなりの自由度を持つことができ、今後が期待できる。				自己評価は妥当である。 コロナ禍を契機としたリモートワークとのハイブリッド勤務をはじめ、ワークバランスに配慮した職場作りが進められている。また、まだ十分とは言えない状況ではあるが、宇宙戦略基金への対応もあり、採用人材を増加する対応もなされてきていることから、A 評価が妥当である。 ＜翌年度以降に向けた課題・指摘事項＞ ● 限られたリソース活用の観点から、リスクリングやマルチスキル化の取組についても記載して頂くと尚良いと思います。 ● どの組織でも同様だが、JAXA のような専門家集団において、人材は何よりも重要である。JAXA の業務が拡大する中、評価項目の全体で「人員不足」が課題となっていることは深刻にとらえるべきではないか。限られた財源の中で容易ではないかもしれないが、必要な人員は確実に確保し、意欲ある職員がきちんと評価されるよう取り組みを進めてほしい。 ● 宇宙戦略基金への対応のため、さらなる人材の確保を進め、適切な基金配分と有効利用を図ってほしい。			

VI.3 中長期目標期間を超える債務負担	自己評価	-	部会意見	-	自己評価	B	部会意見	B
					自己評価は妥当である。 適切に取り組まれており、B 評価が妥当である。 <u>＜翌年度以降に向けた課題・指摘事項＞</u> ● 評価の判断は難しい項目だと思います。 ● 今中期から継続して調達が必要であると法人の長が判断したという評価根拠では、評価を判断するのにあたって、必要な情報が不足している。なぜ法人の長が必要だと判断したかの理由等の詳細な情報を提示してもらいたい。			

VI.4 積立金の使途	自己評価	-	部会意見		自己評価	-	部会意見	

法人全体を通した評価に関する御意見	● 【評定理由・根拠】と「補足などの説明資料」が整備されているのでとても分かりやすい。ただし資料の枚数は多過ぎると思う。読む方は大変勉強になるが、作成する手間を考えると効率性が課題と考える。各項目の枚数の上限を設けた方が良いかもしれない。 ● 皆様の活動を高く評価します。今後のご活躍にも期待しています。 ● 実績報告書の体裁の変更により、格段に読みやすくなった。次年度以降もこの形を継続していただきたい。他方で、ヒアリングの3日前にようやく報告書が送付されたことは、タイミングとしては遅すぎる。評価委員は常勤者ではないことを考え、もう少し早く報告書を送付していただきたい。 ● 光通信を使ったダウンリンク、はくりゅうによる雲観測の成果など衛星分野で素晴らしい成果があったと思う。 ● 日本人宇宙飛行士による2回の月面着陸、日本による与圧ローバー提供を含む「与圧ローバーによる月面探査の実施取決めへの貢献や情報収集衛星に関してS評価となっており、リモートセンシングや宇宙科学・探査以外でのS評価が増えている点は評価できる。 ● 自己評定はおおむね適切であるが、各論については一部再検討に値する項目があるように思われる。	● 第4期実績評価をベースにして、令和6年度評価を記載されているので分かりやすかった。第4期実績評価に過年度の成果は黒色、当該年度（令和6年度）は赤色などで記載すれば、全体の進捗状況が分かりやすいかもしれない。 ● 皆様の活動を高く評価します。今後のご活躍にも期待しています。 ● 光通信を使ったダウンリンク、はくりゅうによる雲観測の成果など衛星分野で素晴らしい成果があったと思う。 ● H3、イプシロンSなどの宇宙輸送機やインシデントの発生などいくつかの重要な問題が発生しているが、一方で、ALOS-4 や、はやぶさ2など観測衛星・宇宙探査機などで、大きな成果を上げている点は評価できる。また、アルテミス計画への取組み、政府からの受託事業なども高く評価でき、全体としては、大きくプラスの評価になると考えている。 ● 自己評定はおおむね適切である。
翌年以降にフォローアップが必要な事項、課題等の御意見	● 宇宙戦略基金対応のため、ファンディングエージェンシーの運用という、JAXAとしては未知の分野に踏み出しつつある。このための人材に必要な能力は従来とは異なったものが想	

	定されるため、外部人材の登用や内部人材の育成等、適切に対応する必要があると思われる。米国政権交代による NASA 予算削減の影響が今後、JAXA 自身の計画にも影響を及ぼす可能性があり、どのような影響が想定されるか、予め検討しておくべきである。 ● JAXA の立ち位置が大きく変わっている側面を迎え、JAXA 自身の研究と技術移転、ベンチャー企業の育成と支援、国際約束の締結や根回しなど、多面的な施策の実行が求められている。マネジメントをC×O体制とする方が対外的に分かりやすいかもしれない。理事長がCEOであり、副理事長がCFO・・・など。 ● JAXA は日本の強みを活かし、素晴らしい活動を展開しており、高く評価します。国内製品・技術にこだわる姿勢も重要で、国際的に宇宙分野への注目が高まる中、この数年は安全性テストや人材採用の強化も米国、欧州でも見られます。今後さらにプレゼンスを高め、ご活躍されることを期待しています。皆様の取り組みを誇りに思います。 ● H3 については、初号機の失敗に対して、適切に対処できたようであり、順調に打ち上げが進んでいることは喜ばしいことであるが、イプシロン S については依然問題をかかえており、国民の信頼を損ねたままとなっている。いずれも衛星打ち上げ計画に影響を与えており、今後同様の事案が生じた場	
--	---	--

	合のリスク対策についても考えておく必要があると思われる。宇宙戦略基金の配分機関としての立ち上げも順調に進みつつあるようだが、必要な人材の確保と育成はきわめて重要であり、引き続き、優先した取り組みが期待される。 ● 米国での新政権発足などの国際情勢の変化を受けて、日本の国際的プレゼンスを示すために効果的な方策を全 JAXA 的に見直す必要があるのではないか。 ● 宇宙戦略基金が開始されたことを受け、その運営業務が従来の業務を圧迫していないかや、技術開発や人材育成においてより相乗効果を高める施策は何かを、戦略的・組織的に整理する必要があるのではないか。 ● 昨年度の成果に甘んじず、さらに技術開発を進めるとともに、新たな課題にも果敢に挑んでほしい。入手できた成果は民間への技術提供も推進し、民間の宇宙分野参入の呼び水、ツールとして活用してほしい。それらを実現するためには、組織の体制整備が欠かせない。人材の確保・育成、資金の確保を含め、国とともに取り組みを進めてほしい。	
マネジメント全般に関する意見		